

研究機関：広島大学

研究課題名	緑内障手術前後の角膜形状と光学的特性変化の研究
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科視覚病態学 教授 木内 良明
研究期間	2017年6月12日(倫理委員会承認後)～2027年1月31日
対象者	2017年6月12日から2026年7月31日の間に、広島大学眼科で、線維柱帯切開術、線維柱帯切除術、チューブシャント手術、線維柱帯バイパスステント手術を受けられた患者さん。
意義・目的	<p>緑内障手術は、視機能温存を目的に眼圧を下降させる手術です。手術術式としては、線維柱帯切開術、線維柱帯切除手術に加えて、難治性緑内障に対するチューブシャント手術や極低侵襲緑内障手術として線維柱帯バイパス微小ステント手術などの新しい手術法があり、手術術式は多様化しています。手術後の効果判定には視野検査が主に用いられますが、手術後早期より良好な視機能を回復させるためには、角膜形状変化や不正乱視を評価することが眼圧下降と共に重要です。緑内障手術前後の視機能評価には従来の眼圧や視野検査のみならず、見え方に影響する角膜形状変化や高次収差にも注意する必要があります。本研究は、本院で施行する線維柱帯切開術、線維柱帯切除手術、チューブシャント手術、線維柱帯バイパス微小ステント手術に対して、日常診療で用いられている検査機器である光干渉式角膜形状解析装置と波面収差解析装置を用いて検査します。各術式の特徴的所見を解析することで、視覚の質の向上を目的とした、早期の視機能改善が期待できる新たな手術法を模索することが目的です。</p>
研究方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は年齢、性別、治療経過、視力、眼圧、角膜形状解析検査、角膜および眼内収差検査結果などです。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p>
共同研究機関	本研究は本学単独で行います。
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。</p>
問合せ・苦情等の窓口	<p>〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3</p> <p>Tel : 082-257-5247</p> <p>広島大学病院視覚病態学診療科 教授 木内良明</p>